まとめ

今回の結果は、総合日本語プログラムを受講したことがある学習者からの回答が多いという特徴はあるものの、回答者の属性は、全学の留学生割合とも一致しており、また、総合日本語プログラム受講者の割合とも一致したサンプルを取ることができたといえる。以下、本調査の結果から明らかになったことをまとめる。

来日時点での日本語レベルについて

理系の学生には日本語を学ばずに来る学生が多く，文系と短期留学生の多くは既に日本語を学び中級上級になってから来日する学生が多いことがわかった。

総合日本語プログラムの履修状況について

受講したことがあっても出席していない理由としては，専門との兼ね合いが最も大きな理由であることがわかった。同様に，現在受講していない学生や過去に受講した経験のない学生は，日本語を学びたいという希望はあるものの，専門が忙しくて思うように受講できないことがわかった。

総合日本語プログラムプログラムへの満足度

今回の結果では、受講したことがある学生のほとんどが現在のプログラムの内容に満足していることがわかった。しかしながら、自由記述のコメントには、コースの編成、授業内容や進め方に関してさまざまな意見が挙がっていたことも検討しなければならない。

日本語学習の目的とニーズ

本学で学ぶ学生の主な目的としては，周囲の人間とのコミュニケーションができるようになること，日本や日本社会への理解のために日本語を学びたいと考えていることがわかった。また，学習者の属性によって，日本語でできるようになりたいことに特徴があることがわかった。理系・医薬系では，日常生活に必要な日本語と，特に研究や学習場面において日本語によるコミュニケーションができるようになることを望んでいることがわかった。また，文系では，特に大学の授業や研究においては日本語が中心であり，特にアカデミック場面での日本語のスキルが４技能にわたって必要であることがわかった。短期留学生は大学内外の人々とのコミュニケーション，そして日本社会や日本文化理解のために４技能にわたる日本語能力を高めたいと考えていることがわかった。

e ラーニングについて

総合日本語の e ラーニング「e-IJLP」は、受講した学生しか認知されておらず、また受講歴のある学生の中にも利用していない学生がいることがわかった。e ラーニングで学びたいこととしては、「聞く」「書く」「会話」といった技能に関心が高いことがわかった。